以下の問題文が正しければ、解答用紙の○を、誤っていれば×をマークしなさい。

1　復元とは機能を元に戻すことであり、改良とは材質や構造を変え、弱点を改善することである。

2　故障モードには、断線、変形、クラック、摩耗などがある。

3　工程能力とは、定められた規格限度内で製品を生産できる能力のことである。

4　自主保全活動には、不安全行動の排除は含まれていない。

5　TPMにおいては、あらゆるロスをゼロにする「ゼロ指向」が大切な考え方である。

6　マイクロメーターは、直射日光程度であれば精度に影響はない。

7　微欠陥は、突発ロスを引き起こすことが多い。

8　定点撮影方式は、活動の効果を定量的に表したいときに用いる方式である。

9　ボルト、ナットの合マークは、ゆるみが容易に発見でき、即座に増締めができるように、ひと目で見られるよう工夫をしたものである。

10　FTAとは故障モード影響解析と呼ばれる解析技法のことである。

11　日常点検によって、劣化部品を見つけて交換することは予防保全にあたらない。

12　外段取りとは、段取り作業のうち、機械設備の運転を止めなければできない型･工具、治具類の交換などの作業をいう。

13　制御盤、操作盤、中継ボックス内部の汚れやチリなどの有無は、重要な点検ポイントの１つである。

14　呼び径12mmのボルトを増締めするときは、補助パイプを使って締め付ける必要がある。

15　自主保全体制づくりとは自分の設備は自分で守れる、設備に強いオペレーターづくりである。

16　自主保全第７ステップ（自主管理）には、第１～第６ステップまでのすべての活動が入っている。

17　設備の「本質安全化」のためには、フェイルセーフ化とフールプルーフ化が有効である。

18　5Sとは、整理、整頓、清掃、清潔、診断のことである。